

「第2期江田島市水産振興ビジョン(案)」に対するパブリックコメント実施結果

市民の皆様から広く意見をいただくためのパブリックコメントを実施しました。
ご提出いただいた貴重なご意見については、項目ごとに整理し、これに対する市の考え方をまとめましたので公表します。
貴重なご意見をお寄せいただき、誠にありがとうございました。

1 パブリックコメント実施概要

- (1) パブリックコメント実施期間（意見の提出期間）
平成29年2月20日(月)～3月21日(火)
- (2) 意見提案の対象者
市内在住・在勤・在学の方，市内に事業所を有する方，その他利害関係者
- (3) 閲覧場所
本庁・江田島支所・能美支所・沖美支所・三高支所及びHP
- (4) 意見の提出方法
持参又は郵便，FAX，電子メール

2 パブリックコメント実施結果

- (1) 提出者数 2人
- (2) 項目数 41件
- (3) 寄せられた意見等と市の考え方について 別紙のとおり

頁	計画（案）に対する意見	市の考え方
	<p>計画全般</p> <p>江田島ブランド化を目指すと言っても、魚自体の漁獲量が激減しており、なおかつ、大量に獲れるチヌは広島県では価格的な問題で漁業者の収入の増加は難しいと思う。</p> <p>カキのブランド化は良いとは思いますが、生産者によって、カキの品質にムラがあるため、江田島市で生産されているカキを江田島ブランドにするのは無理と思う。1業者とか少数でブランド化するのなら可能。手間がかかりすぎる。</p>	<p>チヌの問題は、「第5章：重点プロジェクトの重点4」の中で活用方法を検討していきます。</p> <p>参考意見とさせていただきます。</p>

P18	<p>第3章：これまでの取組と課題</p> <p>V 漁業経営の改善</p>	
	<p>イ 継続的経営の確保（かき養殖）</p> <p>外国人市民へのフォローアップをどのように取り組み、どのような成果がでたのか。</p> <p>ウ 加工品の開発</p> <p>漁協女性部は単協か、それとも江田島市の11漁協で組織する女性部があるのかわかりにくい。11漁協、漁業振興協議会、水産物等販売協議会、青年部など、江田島市の漁業関係組織体系を図で示してほしい。また、江田島市内や広島市内の各種イベントの具体例があれば表記してほしい。</p>	<p>(2)</p> <p>市全体としては、平成25年から外国人市民を対象とした国際スポーツ親善交流会を行っており、水産業の視点では、監理団体が行う研修の際に、市の施設を無償で提供や広島県漁連主催の会議に積極的な参加等の実績あります。</p> <p>(3)</p> <p>女性部活動は単協での取組を示しています。江田島市内では、ヒロシマMIKANマラソン大会で行われる「産業祭り」や「おおがきみなと市場」、「江田島市カキ祭」です。広島市内では、「フードフェスティバル」と「住宅展示場でのイベント」です。2つほど例を記述します。各組織体系図については、「第9章：附属資料編」を設けて対応します。</p>

頁	計画（案）に対する意見	市の考え方
P21	<p>水産業の基本理念にある市場ニーズ（消費者） 水産物の海外への輸出戦略を入れてみてはどうでしょうか。（国内市場に限る必要はない。）生食用殻つき牡蠣は香港などをターゲットにできる。水産加工品（調製品）は、6次産業化（→加工工場の建設と雇用の創出）とブランド化が求められます。同時にマーケティングも重要で、広島日本香港協会（→ http://www.jhks.gr.jp/hiroshima/index.html）や（公財）ひろしま産業振興機構（国際ビジネス支援センター）との連携も視野に入れてはどうか。</p>	<p>市場ニーズでは「多様なニーズ」と捉えているため、国内に限った考え方ではありません。市場との意見交換でも、こうした取組に対するヒントがあります。「第6章：施策展開」の「2 具体的方策」, 「Ⅱ 出荷・販売方法の改善」の㊦の中での参考とさせていただきます。</p>
P21 ～ P22	<p>第4章：水産業の基本理念と将来像 江田島市水産業の将来像＝「かせげる水産業」ということでよろしいでしょうか。また、「かせげる水産業」とはどういう意味か、例示すべき。「漁業所得500万円以上」ということだと思いますが。</p>	<p>「かせげる水産業」とは、「漁業所得500万円以上かせぐ」ということを示します。 注釈を入れて対応します。</p>
P25	<p>第5章：重点プロジェクト 重点4 未利用魚種の有効活用プロジェクト 県内で圧倒的な漁獲高を誇るクロダイ（チヌ）を「えたじまメバル」のようなブランド化することを検討してはどうでしょうか。 下記の新聞記事のように、尾道では既に大学と連携しており、今後、この研究が進んでチヌの価値が見直され、魚価が上がれば漁業者の漁労士気があがり、江田島市の水産業にとっても明るい未来が見えてきます。江田島市の特産品に「黒鯛みそ」（高森祥光本店）がありますが、さらなる商品開発にむけた行政支援をお願いします。</p>	<p>重点4では、新たな加工品の開発として、「企業・大学・漁協女性部との連携など」と記述しており、来年度以降、このような取組を進めるように努めます。</p>

頁	計画（案）に対する意見	市の考え方
P27 ～	<p>第6章 施策の展開</p> <p>水産庁が進める『浜の活力再生広域プラン』において、江田島市も広島県広域水産業再生委員会の構成委員であると思います。【海面漁業】や【海面養殖業（江田島市の関係では牡蠣）】に関する再生プランで平成28年度から平成32年度の5カ年で取組が計画されています。</p> <p>これを土台とした江田島市の施策展開であるならば、この点も説明すべきであると思います。つまり、江田島市単独の事業もあるだろうし、この再生広域プランに沿った事業もあることを明記すべきです。</p>	<p>江田島市は、広島県が策定し水産庁が承認した「浜の活力再生広域プラン（海面漁業・海面養殖）」の構成員です。</p> <p>このプランと本計画は、同じ方向を向いており、具体的方策の中に記述しています。</p>
	<p>【2020広島県農林水産業チャレンジプラン】（H22.12）との関係を教えてください。このプランに沿った事業も計画されているのかどうか。</p>	<p>2020広島県農林水産業チャレンジプランでは、「経営力の高い担い手の育成」、「水産資源の持続的な利用体制の構築」、「販売戦略を踏まえた生産・流通・販売体制の実現」となっています。</p> <p>本ビジョンとは十分に関連付け、事業の推進に当たっては、県と連携しながら取り組みます。</p>
	<p>H28.2に策定された広島県地産地消促進計画（第2次）との関連性も教えてください。</p>	<p>広島県地産地消促進計画（第2次）は、上記のチャレンジプランに基づき策定されています。</p> <p>そのため、地産地消計画に関連する計画も水産振興ビジョンに位置付けられており、県と連携しながら取り組みます。</p>
	<p>また、H29年度に、新たに6次産業化・地産地消推進協議会を設置して推進戦略を策定予定ですが、この協議会との関係性も盛り込む必要はないでしょうか。</p>	<p>6次産業化は、「Ⅱ 出荷・販売方法の改善」「Ⅳ 販売活動の推進」の中で取り組むこととしています。</p>

頁	計画（案）に対する意見	市の考え方
P29 ～ 30	<p>II 出荷・販売方法の改善</p> <p>江田島市産の「魚」を江田島市内で買える仕組みも検討してはどうか。スーパー等では他県・地域産が売られており、江田島市民は地魚を消費していないのではないかと。広島・呉の市場経由よりも『浜値』で新鮮な魚が買える、漁師も市民もよろこぶシステムを構築できないだろうか。</p> <p>また、将来的に、若手の新規漁業者がグループを作り、『海辺の新鮮市場』で江田島の地魚を活用した『漁師食堂』（仮称）を展開するのも面白い。（交流人口増加にも貢献）</p>	<p>「第6章：施策展開」の「2 具体的方策」、 「II 出荷・販売方法の改善」の「㊦販売活動の展開」の中や、同じく「V 漁業経営の維持・改善」の「(3) 観光事業との連携」の「㊦ 販売活動の推進」の中で、検討させていただきます。</p>
P40	<p>第7章：計画の推進に向けて</p> <p>2 計画の進行管理</p> <p>PDCAサイクルは市の担当部署で進捗・管理するのか。この計画を推進する協議会というのがあるのか教えてください。（江田島市漁業振興協議会、県、市の連携が必要とありますが）</p>	<p>この計画の推進母体は「江田島市漁業振興協議会」と捉えており、この協議会の中で、11漁協と県と市が進捗状況を共有しながら推進する必要があると考えています。</p>

	頁	計画（案）に対する意見	市の考え方
その他		計画全般	
		<p>水産振興ビジョン＝計画という認識でよいか。 ※ビジョンは、『未来像、展望、考え』という意味合いがあり、計画とはいえないのではないかと。H22年7月に策定されたときは、「江田島市水産振興ビジョン活動計画」であったと思いますが、記憶違いでしょうか。</p> <p>全般的に図が小さくて判り難いので、工夫していただければと思います。</p>	<p>本計画は、「江田島市水産業」の基本となるものであるためビジョン（展望）を明示した計画であることから「水産振興ビジョン」としています。</p> <p>図が小さくて分かりにくいとのことご指摘につきましては、印刷製本を行う際に、適宜、見直しを行います。</p>
その他	P1	第1章：はじめに	
		<p>1 計画改定の趣旨</p> <p>むき身生産量 全国有数とありますが、『第2位』と具体的な順位を入れてはどうか。</p> <p>2 計画の位置付け</p> <p>第2次江田島市総合計画は「上位計画」ではなく、「市の最上位計画」としてはどうか。</p>	<p>平成26年農林水産統計年報の生産量をみると、第2位で間違いありませんが、全国有数の産地であることに間違いありませんので、この表現で統一させていただきます。</p> <p>「最上位計画」に修正します。</p>
その他	P2	第2章：江田島市水産業の現状	
		<p>1 漁業従事者の推移</p> <p>平成25年の数値を引用していますが、直近の平成28年のものがあるならば、そちらを引用してはどうか。</p>	<p>「第2章」の現状は、2013年（H25年）漁業センサスを用いなければ表すことができない項目が多いため、使用しています。</p>

頁	計画（案）に対する意見	市の考え方
P3	<p>3 主要漁業の推移</p> <p>「ぱっち網漁業」の漁獲対象（魚種はイワシ、シラスか？）を明記してはどうか。</p>	修正します。
P4 ～ 5	<p>グラフの数値が一部抜けています。</p> <p>漁船漁業経営体数 H20 漁獲量・生産量 H20 ぱっち網漁獲量 H20 かき養殖生産量 H20</p>	元々、小さなグラフであるため、表示しておりませんが、データを追記することとします。
P5	<p>5 漁業種類別漁獲量・漁獲金額の推移</p> <p>(1) 漁船漁業</p> <p>平成26年における市内業船漁業の漁獲量は8,611tで県内生産量の47.6%を占めていることのビジュアル化はできないでしょうか。牡蠣養殖も含め、江田島市の水産業が「県の水産業」のけん引役であることを市民の皆さんにも知っていただければと思います。</p>	漁獲量と県内シェアの表を設けます。
P6	<p>漁獲量の推移</p> <p>H26イワシ類の漁獲量は表中7,365tとなっていますが、【平成26～27年広島農林水産統計年報】では、7,395t（かたくちいわし6,683t、しらす711t）となっています。</p>	修正します。
P7	<p>(2) かき養殖業</p> <p>生産量は「むき身」であることの注釈が必要です。最近の農林水産省統計部（海面養殖業収獲統計調査）では、「殻つき」での統計数値しかありません。</p> <p>広島県は日本一の牡蠣生産県であり全国シェアは毎年5割以上を誇っています。また、広島県の1位 呉市、2位 江田島市、3位 広島市が全国でも1位から3位であり、平成16年に合併した江田島市は平成18年まで全国1位（江田島市統計書）でした。この点も何らかの形で表記（図を含め）して頂けたらと思います。</p>	表現方法を改め、対応させていただきます。

その他

	頁	計画（案）に対する意見	市の考え方
その他	P8	<p>8 栽培漁業・資源管理型漁業の取組</p> <p>「獲る漁業」から「つくり育てる漁業」への転換は、いつごろから取り組んでいるのか示してほしい。（表で見ると合併前の旧町時代から取り組んでいるようですが。）</p>	<p>広島県では、昭和50年代から「獲る漁業から作り育てる漁業へ」をスローガンに取り組んでいます。</p>

その他	P13	<p>第3章：これまでの取組と課題</p> <p>1 中間点検の趣旨</p> <p>『現在の計画は計画策定から5年～』とあります。中間点検は策定（平成22年7月）から5年ということで、平成27年に行われたということでしょうか。</p>	<p>計画の見直しに係る課題を抽出するため、平成28年8月に中間点検を実施しています。</p>
	P14～19	<p>表記に工夫が必要です。</p> <p>4つの柱、「漁船漁業の振興」、「かき養殖漁業の振興」、「漁業経営の安定化」、「後継者の確保」を大きく太字に。</p> <p>また、「Ⅰ水産資源の維持・増殖」、「Ⅱ流通改善・システムの構築」、「Ⅲかき養殖安定生産」、「Ⅳ流通改善・システムの構築」、「Ⅴ漁業経営の改善」、「Ⅵ担い手・後継者の確保及び活動推進」には、（1）主な取組状況と（2）今後の課題があります。P13に取組みについては「（1）栽培漁業の推進」とあり、P14以降では「ア.栽培漁業の推進」となっており、（1）と（ア）で統一性がないので改めるべき。</p> <p><主な取組状況>と<今後の課題>はあるが、<成果>が表記されていない。できるなら数値を示した成果の記述がほしい。下に参考例を示します。</p>	<p>記述の並びについては、修正します。</p> <p>成果については、既存のビジョンには数値目標が設定されていませんでしたが、中間点検を行うに当たっては、実績値を把握するなどして評価しています。これを表中に追加して、適宜、数値を用いながら記述します。</p>

頁	計画（案）に対する意見	市の考え方
その他	P14 (1) 主要な取組状況 ア 栽培漁業の推進 いつからオニオコゼを放流し、また、いつ広島大学との提携によるアサリ資源調査を実施したかを明記してほしい。また、成果（数値など）が必要です。	(1) オニオコゼは平成17年度から、アサリは平成23年度からです。本文中に取組み年度を記述します。また、成果については、【成果】の表を加えて対応させていただきます。
	ウ 漁場管理体制の構築 いつから漁場の定期的な巡視を実施しているか。	(3) 「定期的な巡視」と記述しているので、特別なことを実施しているように感じられるものと思いますが、組合員が操業を行う際も巡視の一つであるため、このように記述しています。
	エ 漁場基盤の整備 いつからカワウ捕獲調査が行われたか、また、これまでの実績がどうかを表記してほしい。	(4) カワウの捕獲調査は、平成21年度からです。本文中に【成果】の表を加えて対応します。
P15	(2) 今後の課題 「バックフィッシュ」の定義を注釈に入れてはどうか。 広島県では、「資源を無駄にしない漁業」を目指して、全漁業種類を対象として、小型魚の再放流を実施してきた、など。P9の「自主的再放流」がバックフィッシュ。	「バックフィッシュ」の定義を注釈に加えます。
P16	III かき養殖安定生産	
	ウ 生産環境の改善 「発砲スチロール減容器」で処理した物量のデータは把握しているか。	(3) 把握しています。平成24年度から平成27年度までの実績は15,050キロです。

頁	計画（案）に対する意見	市の考え方	
その他	P18	V 漁業経営の改善 エ 商工・観光・農業等との連携 PR活動の具体的な内容を示してほしい。たとえば、牡蠣祭りなど。	(4) 2・3例を示した記述に改めます。
	P20	2 見直しにおける今後の課題 キーワード1： 水産資源（魚・かき） 「漁獲量が減少する」・・・P6（漁獲量の推移）、P7（かき養殖生産量の推移）からは単に、「減少」とは言い切れないのですが、どのように減少するのか具体的に示してほしい。	漁協や漁業者、市場関係者への聞き調査を行う中で、統計上での数字以上に資源が減少していることが伺えました。 ここでは、キーワードを導き出すコメントであるため、今後の取組の参考とさせていただきます。
		キーワード3： 市場ニーズ（消費者） 「従来のように、獲る漁業に加え、」→「従来のように、単に獲って呉市や広島市の市場へ出荷する形態だけでなく、」	表現方法はいろいろな意見があろうかと思えます。今後の取組の参考とさせていただきます。
		「消費者目線」→お客様が買いたくなる、という意味合いだと思いますが、何かいい表現がないでしょうか。	同上
高付加価値化とは、高鮮度（品質向上）、ブランド化ということでしょうか。		高付加価値化に関する取り組みは、いろいろあろうかと思えます。ご意見の内容もその1つとして、今後の参考とさせていただきます。	
その他	P22	第4章：水産業の基本理念と将来像 水産ビジョンの四つの柱（①後継者の確保、②漁業経営の安定化、③漁船漁業の振興、④かき養殖の振興）をしっかりと示しておく必要があります。（→P13の平成22年7月策定の水産振興ビジョンから変わらない大きな柱）	四つの柱は「第6章：施策の展開」にも示しています。

頁	計画（案）に対する意見	市の考え方
その他 P23 ～	第5章：重点プロジェクト 凡例の表下に関係団体等の具体例を注釈に入れたほうがよいのでは。 例えば、オニオコゼ・キジハタなどの種苗の集中放流では、『関係者』（業者、産地仲買業者、卸売業者、料理人）が連携して、消費者ニーズの視点に立った『ブランド化のための規格・基準の決定』や『ブランド認定の制度設計』に取り組むことが必要です。	「関係者」は多岐にわたるため、十分に理解ができると考えています。
	「コールドチェーン」の注釈→ 冷凍・冷蔵貨物の品質を保持するための低温物流	注釈を加えます。
	関係団体等の具体例を示すべきです。	計画を推進する上での関係団体は多岐にわたり、裾野が広いものと考えますので、参考とさせていただきます。
その他 P29	第6章 施策の展開 II 出荷・販売方法の改善 関係団体等 行政・漁協（漁業者・生産者）以外の関係団体について具体的に示す必要があります。（例示）	関係団体とは、水産振興や漁業経営にかかわる全ての団体、企業、大学など、多岐にわたるものを示します。参考とさせていただきます。